



## ずっとよい？ さらによい？——比較級の修飾語句

英語において、形容詞・副詞の比較級は比較の主体と対象との間に比較の基準に関して程度の差があることを表します。次の例を見てみましょう：

(1) The United States is larger than Britain.

(2) It is easier for Japanese to pronounce Italian than English.

(1)は比較の主体(=the United States)と比較の対象(=Britain)との間に比較の基準(ここでは size (大きさ/面積))に関して程度の差があり、前者のほうが程度が上であることを表します。(2)は比較の主体(=for Japanese) to pronounce Italian)が比較の対象(=for Japanese) to pronounce English)よりも比較の基準(ここでは easiness (容易さ))に関して程度が上であることを表します。これらにおいて、もしその程度差が大きいことを表したい場合は、比較級に much, a lot, far, considerably などの程度修飾語句を加えることによって表現できます：

(3) The United States is much larger than Britain.

(4) It is much easier for Japanese to pronounce Italian than English.

(3)(4)の程度修飾語句は程度差の大小の表現に関わるものですが、比較級とともに用いられる修飾語句には、比較の程度差の大小ではなく程度差の存在そのものを強調するものもあります。次の例を参照：

(5) My temperature was 38.5 degrees when I took it an hour ago, but I'm afraid it's even higher now.

(cf. NHK ラジオ『続基礎英語』)

(6) Prime Minister Noda pledged to rebuild so that Japan could be reborn "as an even better place".

(BBC News, 2012. 3. 11)

(5)(6)で比較級を修飾している even は、比較の程度差の存在そのものを強調する役割を果たしています。たとえば(5)の場合、「1時間前の体温」は 38.5℃であったが、「現在の体温」はそれよりもさらに高い温度 (38.8℃とか 39℃とか) になっている可能性があることを強調しています。(6)は東日本大震災一周年の追悼式典について報じた記事の中で当時の野田首相の発言を記したのですが、震災からの復興を成し遂げて日本が「さらによい国として」生まれ変われるようにしたいという誓いの気持ちを述べています。

このような比較の程度差の存在自体を強調する修飾語としては、even の他に still や yet も使われます。次例を参照：

(7) The number of people killed in the explosion is likely to rise still higher. (CALD<sup>3</sup>)

(8) snow, snow and yet more snow (OALD<sup>8</sup>) (cf. ♪ 降っても 降っても まだ降りやまぬ)

これらの比較の程度差の存在自体を強調する語が用いられる場合に注意すべきことは、このような場合、比較の対象となるもの自体が(通常)かなりの程度のものであるという含意があるということです。たとえば(5)の場合だと、比較の対象は「1時間前の体温(=38.5℃)」ですが、これは平熱(36.5℃前後)からするとかなりの高熱であり、この場合はそのようなかなり高い温度よりも現在さらに高い温度になっているかもしれないということで、そのような事態の重大性を訴えています。(6)は、比較の対象である「震災前の日本(の国土)」はすばらしいものであったが、震災から復興して、その元のすばらしい国土よりもさらにすばらしいものにしたいという決意を述べているわけです。

この比較の程度差の存在自体を強調する even を用いた表現 even better について、次のサイトの記述も参考にしてください：

・ビジネス英語のケース・スタディー <http://www.usfl.com/article.asp?id=39709>

Even better

日本人と一緒に働くアメリカ人が仕事で成果を挙げた場合でも、潜在的な問題や将来起こりうる失敗に目がいきがちです。しかし、成果を認めてあげないとアメリカ人は誤解して、自分の仕事がしっかり評価されていないと感じてしまいます。

成果を認めながら、改善できる点を指摘するにはどんな言い方があるでしょうか？

こういった時、even better という表現はとても便利です。これは、「既に良いものを、さらに良くする」という意味です。

その使用例を見ましょう。3つのステップで述べるのがポイントです。

①まず、良い結果に触れる

■ I'm very happy that we hit the target this year. 目標を達成できて、非常にうれしく思っています

■ It's thanks to your hard work. 一生懸命働いてくれたことに感謝します

②次回はさらに良く出来るだろうと伝える

■ By working together, I'm sure that we can do even better next year. 一緒に働くことで、来年はさらに良くなると確信しています

③改善する余地のある所を指摘する

■ One area for potential improvement I noticed is ～. 改善の余地がある部分としては～

■ Addressing this will enable us to do even better in the future. これに取りかかれば、私たちは将来さらに良くすることができます

・ニューヨーク駐在英語 <http://blog.livedoor.jp/cyuzaeigo/archives/1623876.html>

突然ですが Even better っていう言葉。Much better と同じ意味かと思っていましたが、「もともと良いものがあって、更に良い」ということを言いたいときに使われると知りました。This window makes your house even better. と言えば、「この窓はあなたのお家を更に良くしますよ。」といういかにもセールスマンが使いそうなセリフになります。ダメなものが良くなるのではなく、もともと良いものももっと良くなる、というニュアンスが伝えられて便利です。